

仲裁判断の骨子

公益財団法人日本スポーツ仲裁機構
JSAA-AP-2025-009

申 立 人：X
申立人代理人：弁護士 野条 泰永

被 申 立 人：公益財団法人全日本スキー連盟（Y）
被申立人代理人：弁護士 生田 圭

主 文

本件スポーツ仲裁パネルは次のとおり判断する。

- 1 申立人の本件仲裁申立てをいずれも棄却する。
- 2 仲裁費用は申立人の負担とする。

本件は、緊急仲裁手続であるので、スポーツ仲裁規則（以下「規則」という。）第 50 条第 5 項に基づき、以下に理由の骨子を示し、規則第 44 条に基づく仲裁判断は、後日作成し、申立人及び被申立人に送付する。

理由の骨子

第 1 当事者の求めた仲裁判断

- 1 申立人は、以下のとおりの仲裁判断を求めた。
 - （1）令和 7 年 10 月 30 日付で被申立人が行った、申立人の別紙表記載の大会への参加許可申請を却下する旨の決定（以下「本件決定」という。）を取り消す。
 - （2）被申立人は、申立人について、別紙表記載の大会へ参加登録せよ。
- 2 被申立人は、以下のとおりの仲裁判断を求めた。
 - （1）申立人の申立てを却下又は棄却する。
 - （2）仲裁申立料金は申立人の負担とする。

第2 仲裁手続の経過

本件仲裁手続の経過は、別紙記載のとおりである。

第3 事案の概要

本件は、国際スキー連盟（International Ski Federation。以下「FIS」という。）公認のクロスカントリースキー競技である FIS クロスカントリーワールドカップ 第1 ピリオドの大会（以下「本件大会」という。）について、各大陸別カップ A クロスカントリー競技の 2024/2025 シーズン総合優勝者である申立人が、FIS クロスカントリーワールドカップ規則 2.2.4 条に基づき、2025/2026 シーズンのワールドカップ第1 ピリオドにおける個人の出場枠（追加枠）を獲得したと主張し、その枠に基づいて本件大会への参加を希望した。これに対して被申立人は、申立人の本件大会への参加許可申請を却下する決定（以下「本件決定」という。）を行ったことから、申立人が、①本件決定の取消しを求めるとともに、②被申立人に対し、本件大会への申立人の参加登録をすべきことを求めた事案である。

第4 判断の前提となる事実

1 当事者及び仲裁合意

申立人は、クロスカントリースキー競技の選手であり、日本スポーツ仲裁機構スポーツ仲裁規則（以下「スポーツ仲裁規則」という。）第3条第2項に定める「競技者」に該当する。

被申立人は、日本国内のスキー競技の普及・発展を図ることを目的とする公益財団法人であり、スポーツ仲裁規則第3条第1項に定める「競技団体」に該当する。被申立人は、主に総務本部、競技本部、教育本部等によって構成されており、クロスカントリースキーワールドカップ代表選手の審議・決定は、競技本部内のクロスカントリー委員会によって行われる。

被申立人の会員登録規程第3条第4項には、「前条第1項の会員については、本連盟の決定に対する不服申立ては、日本スポーツ仲裁機構の『スポーツ仲裁規則』に従って解決されるものとする。」との規定があり、これにより、申立人と被申立人との間には、本件決定に関する紛争をスポーツ仲裁によって解決するとの仲裁合意が存在すると認められる。

2 事実の経緯

（１）ワールドカップにおける出場枠・追加枠の制度

FIS は、FIS 公認大会に出場した選手に対し、その成績に応じて FIS ポイントを付与し、一定期間ごとにポイントリストを作成している。ワールドカップの国別出場枠は、前シーズン終了時点の FIS ポイントに基づき、所定の基準を満たす選手の数に応じて各国に割り当てられる。

これとは別に、FIS クロスカントリーワールドカップ規則（Rules for the FIS Cross-Country World Cup 2025/26。以下「WC 規則」という。）においては、いわゆる「追加枠（extra quotas）」が定められている。すなわち、WC 規則 2.2.4 条は、前シーズンにおける各大陸別カップ（以下「COC」という。）総合優勝者（overall winners of the COC）に対し、翌シーズンのワールドカップ第 1 ピリオドにおける個人名義の追加出場枠（nominative quota）を付与する旨を定めている。

各大陸別カップ A は、この COC の一つとして位置づけられており、その総合優勝者は、WC 規則 2.2.4 条に基づき個人としてワールドカップ第 1 ピリオドへの出場権を有するものとされている（甲 4）。

申立人は、2024/2025 シーズンの各大陸別カップ A クロスカントリー競技において総合優勝を果たしており、WC 規則 2.2.4 条の定めに従えば、2025/2026 シーズンのワールドカップ第 1 ピリオドにおいて個人としての追加出場枠を有していると解される。

一方で、FIS 国際スキー競技規則（THE INTERNATIONAL SKI COMPETITION RULES。以下「ICR」という。）215.3 条によれば、国際大会へのエントリー（参加申込み）を行う権限は、各国のスキー統括団体（National Ski Association、被申立人）に専属すると規定されている。すなわち、個々の選手が FIS に対して直接エントリーを行うことは認められておらず、ワールドカップへの参加は、被申立人を通じて行われるエントリーを前提としている（乙 7）。

（２）被申立人の国際主要大会参戦基準

被申立人は、2025/2026 シーズンの国際主要大会参戦基準（以下「本件参戦基準」という。）を策定し、2025 年 8 月に公表した。本件参戦基準のうち、クロスカントリー競技のワールドカップ参戦基準は、要旨以下のとおりである。

ワールドカップ

- ① SAJ 強化指定 S・A ランク
- ② 2024/2025 シーズン WC/WSC30 位以内を獲得した選手
- ③ 2024/2025 シーズン U23 世界選手権 20 位以内を獲得した選手
- ④ 2024/2025 各大陸別カップ A カップリーダー
 - ・ワールドカップ第 1 ピリオドの開幕戦（FIN・Ruka）へ参戦

- ・ただし⑤の対象レースの全てにおいて日本人選手 5 位以内であること
- ⑤ SAJ 強化指定選手のうち、11 月国外対象レースにおいて 10 位以内（1 レース）の成績を獲得し、獲得合計 FIS ポイントの上位者（上位 2 レース平均）男女各 1 名
- ※対象レースは（SWE）Gaellivarepremiaeren 11 月 21 日 10kmCL、11 月 22 日 10kmCL、11 月 23 日 10kmF
- ⑥ 2025/2026 各大陸別カップ A カップリーダー

これに対し、1 年前の 2024/2025 シーズンの参戦基準（以下「前年度基準」という。）においては、「ただし⑤の対象レースの全てにおいて日本人選手 5 位以内であること」との要件は設けられていなかった（甲 3）。当該要件は、2025/2026 シーズンの本件参戦基準において新たに追加されたものであり（甲 2）、その公表が 2025 年 8 月であることからすると、申立人が各大陸別カップ A 総合優勝を果たした後に導入された要件である。

（3）申立人による参加許可申請と本件決定

申立人は、各大陸別カップ A 総合優勝により WC 規則 2.2.4 条に基づく個人の追加出場枠を獲得したことを前提に、本件大会を含むワールドカップ第 1 ピリオド 3 戦への出場を希望した。申立人は、自身の所属連盟である福井県スキー連盟を介し、2025 年 10 月 28 日、被申立人に対して本件大会等への参加許可申請を行った（甲 5）。

被申立人は、他方で、本件参戦基準④にいう「ただし⑤の対象レースの全てにおいて日本人選手 5 位以内であること」の要件を申立人が満たしていないことから、本件参戦基準上、申立人を本件大会に派遣することはできないと判断し、2025 年 10 月 30 日付で、申立人の本件大会への参加許可申請を却下する本件決定を行った（甲 8、乙 4）。

なお、被申立人は、本件とは別に、一般競技者及び強化指定 D ランク選手が海外の FIS 公認大会に参加するための手続として「2025/2026 競技種目別許可基準」（以下「許可基準」という。）を定めており、同基準において、世界選手権（WSC）、ワールドカップ（WC）、ジュニア世界選手権（WJC）については「申請不可カテゴリー」として取り扱っている。福井県スキー連盟は、2025 年 10 月 23 日、被申立人に対し、「2025/2026 海外 FIS 公認大会参加許可申請書」を提出し、その対象大会にワールドカップ Ruka 大会を含めたが、被申立人は、ワールドカップについては申請不可カテゴリーであることを理由として当該部分に取消線を付し、それ以外の大会についてのみ承認印を押して返送した（乙 6、甲 8）。

（４）本件仲裁申立て

申立人は、被申立人会員登録規程第 3 条第 4 項に基づき、本件決定は、①総合優勝により個人名義の追加出場枠を有する申立人をワールドカップに派遣しない点で著しく合理性を欠き、②また、各大陸別カップ A 総合優勝者に対して新たに「対象レース全て日本人 5 位以内」という条件を課す本件参戦基準自体が不利益変更であり、著しく合理性を欠く、として、本件決定の取消し及び本件大会への参加登録を求める本件スポーツ仲裁の申立てを行った（申立書、申立補充書別紙、申立人主張書面）。

第 5 争点

本件における争点は以下のとおりである。

1 本案前の争点

（１） 被申立人の決定と無関係に被申立人に作為を求める申立ては許容されるかどうか

（２） 本件仲裁申立てには申立ての利益があるかどうか

2 本案の争点

（１） 本件決定が著しく合理性を欠くかどうか

ア 本件決定は選手の大会出場権利を制限することになるが、この制限の正当化の客観的な根拠を欠くという理由から、著しく合理性を欠くかどうか（争点①）

イ 本件参戦基準④但書の追加は基準自体の合理性を著しく損なうものかどうか（争点②）

第 6 本件スポーツ仲裁パネルの判断

1 本案前の主張に対する判断

（１） 本件決定が被申立人会員登録規程第 3 条第 4 項にいう「本連盟の決定」及びスポーツ仲裁規則第 2 条第 1 項にいう「決定」に該当するかどうか

被申立人は、申立人が福井県スキー連盟を通じて提出した「2025/2026 海外 FIS 公認大会参加許可申請書」は、「2025/2026 競技種目別許可基準」（乙 3）において「申請不可カテゴリー」とされているワールドカップに関わるもので、不許可は当然のことで、請求の趣旨(1)は理由がないことは明白で、申立ては棄却（却下）されるべきであり、大会への参加許可を求める請求の趣旨(2)についても、被

申立人の決定と関係なく、被申立人に作為を求めるものであるから、申立自体が失当であり、却下されるべきであると主張する（答弁書 8 頁）。

しかしながら、かかる「本連盟の決定」や「決定」の該当性は、競技団体の行為の形式・名称・手続によって判断されるべきではなく、その実質において判断されるべきである。その上で、その判断においては、競技者等の法的地位又は地位に実質的な影響を及ぼすものであるか否かという基準が用いられるべきである（JSAA-AP-2022-004 号仲裁事案、JSAA-AP-2020-003 号仲裁事案、JSAA-AP-2019-007 号仲裁事案、JSAA-AP-2022-013 号仲裁事案）。

本件決定は実質的に、クロスカントリーの国際的な選手としてワールドカップは極めて重要な大会であり、冬季オリンピック大会の出場も左右する最高峰の国際大会に出場することができなくなるという重大な不利益を申立人に及ぼすものであり、まさに競技者等の法的地位に実質的な影響を与えるものであるといえる。したがって、本件決定が、被申立人選手登録規程第 3 条第 4 項に定める「本連盟の決定」及び規則第 2 条第 1 項に定める「決定」に該当することは明らかである。

なお、申立ての趣旨(2)である「被申立人に対し申立人の大会参加登録をすべきことを命ずる」点については、スポーツ仲裁規則 2 条第 1 項が「競技団体の決定に不服がある場合」に仲裁申立てが許されると定めていることに照らすと、競技団体の一定の決定の有効性を争うことを超えて、競技団体に対し積極的作為を命ずることの可否については、スポーツ仲裁に内在する問題があり、どこまで被申立人に作為を命じる権限や機能があるかでは争いがある。そこで、本件では、いずれにせよ本件決定及び本件参戦基準の適法性・合理性の有無が中心的な争点であり、これを検討した結果により、その成否も自ずと決することとなるから、以下では本件決定及び本件参戦基準の合理性について判断することにする。

（２） 本件仲裁申立てには申立ての利益があるかどうか

被申立人は、仮に被申立人が大会への参加を許可したとしても、申立人自身がエントリーできるわけではなく、その意味でも申立てに意味はなく、申立人に申立ての利益が欠けているから却下されるべきとも主張する（答弁書 8 頁）。

しかし、本件決定が取り消された場合、その結果として申立人が本件大会に出場できる可能性があるのであれば、申立ての利益としては十分である（JSAA-AP-2022-013）。しかも、本件申立てにおいては、本件決定の取消しだけではなく（請求の趣旨（1））、申立人がワールドカップに出場することの登録も請求しているのであり（請求の趣旨（2））、併せて認められれば申立人が求めている一連の本件大会に出場できることになる以上、申立ての利益を欠くことにはならない。

2 本案に対する判断

(1) スポーツ仲裁における判断の基準

本件のように国内競技団体が行った決定の取消しが求められた事案について、当機構における過去の仲裁判断においては、概ね次のような判断基準が示されている。すなわち、「日本においてスポーツ競技を統括する国内スポーツ連盟については、その運営に一定の自律性が認められ、その限度において仲裁機関は、国内スポーツ連盟の決定を尊重しなければならない。仲裁機関としては、①国内スポーツ連盟の決定がその制定した規則に違反している場合、②規則には違反していないが著しく合理性を欠く場合、③決定に至る手続に瑕疵がある場合、又は④国内スポーツ連盟の制定した規則自体が法秩序に違反し、もしくは著しく合理性を欠く場合において、これを取り消すことができると解すべきである。」というものである。

本件スポーツ仲裁パネルも、基本的にこの基準が妥当であると考える。したがって、本件においても、上記基準に基づき、本件決定及び本件参戦基準の合理性について検討する。

(2) 争点に関する当事者の主張

本件では、申立人は、一方で本件決定自体が、各大陸別カップ A 総合優勝者に与えられるべき出場機会を否定する点で、権利制限の正当化の客観的な根拠を欠き、著しく合理性を欠くと主張し（上記基準②）、他方で、本件参戦基準のうち各大陸別カップ A カップリーダーに対する要件部分が不利益変更に当たり、派遣基準、推薦基準の出場権の制限・加重は、手続の透明性、適切さを欠き、基準（規則）の不利益変更は（主張書面 11～12 頁）著しく合理性を欠くと主張する（上記基準④）。

これに対し、被申立人は、申立人が WC 規則 2.2.4 条による権利を有するとしても、他方で、ICR215.3 条により国際大会に対するエントリー権限が各国スキー連盟に専属し、本件参戦基準に基づき日本代表チームとして派遣選手を決定する裁量を有し、本件決定は合理的であること、国際主要大会参戦基準はシーズンごとのチーム戦略や国際大会のスケジュール、選手層や予算等を総合考慮して策定されるものであり、前シーズンからの変更があったとしても、その限りで被申立人の合理的裁量の範囲内であると主張する。

(3) 争点に対する判断

本件では、被申立人の内部手続に違反があること（上記基準①・③）については、特段の主張・立証はされていない。そこで、本件スポーツ仲裁パネルは、主として、① 本件決定が著しく合理性を欠くかどうか（争点①）、② 本件参戦基

準のうち問題とされている要件が規則として著しく合理性を欠くかどうか（争点②）、を検討する。

ア 争点①について

まず、WC 規則 2.2.4 条の文言及び趣旨に照らすと、各大陸別カップ A を含む各 COC 総合優勝者が翌シーズンのワールドカップ第 1 ピリオドにおいて個人として追加出場枠を有すること、並びに当該枠が「nominative」であり他の選手に代替し得ないことは明らかなである。この点からすれば、申立人が 各大陸別カップ A 総合優勝者として個人の出場枠を付与されていること、及び被申立人が他の選手をもって当該枠を利用することはできないことは、FIS 規則上の前提として認められる。

もっとも、ICR 215.3 条が明示するところによれば、国際大会へのエントリーを行う権限は National Ski Association に専属しており、個々の選手が FIS に対し直接エントリーを行う制度は採用されていない。ワールドカップへの参加は、日本代表チームとしてのエントリーの中に組み込まれる形で行われ、チームとしての指導・管理・医科学サポート・安全確保等に対する責任も被申立人が負うことになる。

このような仕組みの下では、各大陸別カップ A 総合優勝者の追加枠は、あくまで「その選手をワールドカップ第 1 ピリオドに出場させ得る資格を付与する」ものであって、被申立人に対し、いかなる事情の下でも当該選手を必ず派遣することを義務づけるものとまでは解しがたい。

国際大会等に代表選手を派遣することにつき国内スポーツ連盟に一定の自律性が認められること、及び仲裁機関はその裁量を尊重すべきであるとの上記で述べたスポーツ仲裁における判断の基準に照らすと、被申立人が、自ら策定した参戦基準に基づき、日本代表チームとして総合的なチーム戦略、他の国際大会との調整、予算及び人的資源の制約等を考慮した上で、各大陸別カップ A 総合優勝者である申立人を本件大会に派遣しないとの判断を行ったとしても、そのことのみをもって直ちに裁量権の逸脱・濫用があるとか、著しく合理性を欠くとまでいうことはできない。

また、本件参戦基準は 2025 年 8 月に公表されており、その後、申立人を含む選手は当該基準を前提として同シーズンの準備を進めてきたと認められるところ、申立人が本件決定直前の 2025 年 10 月 28 日まで本件参戦基準の内容や合理性についてとくに異議を述べていないことも考慮すると、被申立人が当該基準に基づき本件決定を行ったことそれ自体に、手続的な不公正や著しく合理性を欠く特段の事情があったということもできない。

以上を総合すると、申立人が FIS のクロスカントリーワールドカップ競技規

則 2.2.4 条に従い、前年度の各大陸別カップ A 総合優勝者として個人の出場資格を有していることを踏まえても、被申立人が本件参戦基準に基づき申立人を本件大会に派遣しないと判断した本件決定は、好成績を収め得る選手をワールドカップに派遣するという被申立人の目的と、自ら策定した参戦基準の趣旨に則ったものであり、被申立人に認められた裁量権の範囲の濫用や逸脱があるとはいえず、したがって、著しく合理性を欠くとまで認めることはできない。

イ 争点②について

次に、本件参戦基準のうち、各大陸別カップ A カップリーダーに対して「対象レース全て日本人 5 位以内」という要件を課したことの合理性について検討する。

前記のとおり、国際主要大会参戦基準は、そのシーズンにおける国際大会の日程、オリンピックや世界選手権等の位置づけ、選手層の厚み、予算・スタッフ等のリソース、チームとしての戦略目標等を総合的に考慮して、シーズンごとに策定されるものであり、前シーズンからの変更があったからといってただそのことだけを理由に当然に不合理となるものではない。

被申立人は、a. 各大陸別カップ A が東アジアを中心とする大陸大会であり、世界トップ選手が参加するワールドカップ等と比較して競技レベルや大会の位置づけが異なること、b. 前シーズンの各大陸別カップ A 優勝は、あくまで前シーズン終了時点までの成果であり、ワールドカップ第 1 ピリオドまでに約 1 年の時間的隔たりがあることから、その間の競技力の維持・向上を確認する必要があること、c. 2025/2026 シーズンは、オリンピックをはじめ複数の主要国際大会が重なる重要なシーズンであり、限られた予算とスタッフの中で、メダル獲得や入賞の可能性の高い選手、及び将来有望な若手選手に重点的に機会を与える必要があること、d. 前年度基準では、各大陸別カップ A 優勝者は他の優先順位の選手によって出場枠が埋まってしまえば自動的にワールドカップに参加できない取扱いであったのに対し、本件参戦基準では、一定の追加要件を満たせば各大陸別カップ A 優勝者にもワールドカップ参加の道が開かれるよう配慮していること、e. 申立人に対しても、対象レースにおいて所定の成績を収めることでワールドカップ出場の可能性が残されており、実際に同様の条件の下で女子各大陸別カップ A 優勝者がワールドカップ出場に向けて準備を進めていること等を主張している。

これらの点に照らせば、本件参戦基準が、各大陸別カップ A 優勝者の競技力の維持・底上げを促しつつ、限られた枠の中で国際大会での成果を最大化するという目的の下で策定されたものであることがうかがわれる。参戦基準において、各大陸別カップ A 優勝者に対し追加的な成績要件を課すことは、FIS 規則に明

示的に禁止されているわけではなく、その内容が著しく合理性を欠くものであるとまではいえない。

申立人にとって、前年度基準に比して本件参戦基準が不利益な変更となっていることは否定し難いが、そのことのみをもって、被申立人が制定した本件参戦基準自体が法秩序に反し、あるいは著しく合理性を欠くと評価することは困難である。スポーツ競技における代表選手選考・派遣基準は、その時々国際競技情勢やチーム事情に応じて見直しが行われる性質のものであり、また、中長期的な戦略に基づき代表チームの編成の在り方、強化方針等を見直す必要もあって、一定の範囲内で国内競技団体の合理的な裁量に委ねられているといわなければならない。

以上の事情を総合すると、本件参戦基準が、各大陸別カップ A 優勝者に対して「対象レース全て日本人 5 位以内」という条件を課していることは、被申立人に認められた正当な裁量権の範囲内のものであり、前年度からの変更や要件の加重が加えられたとしても、基準が法秩序に違反し、又は著しく合理性を欠くとまではいえない。

第 7 結論

以上検討したとおり、

- ① 本件決定は、被申立人が自ら策定した本件参戦基準の趣旨に則り、日本代表チームとしての戦略、国際大会の状況、選手層、予算・人的体制等を踏まえて行ったものであり、被申立人の裁量権の範囲を超えて著しく合理性を欠くものとまでは認められないこと、
- ② 本件参戦基準自体も、各大陸別カップ A 優勝者の競技力確認及びチーム全体としての成果最大化という目的の下で策定されたものであって、法秩序に反し、又は著しく合理性を欠くとまでは評価できないことが認められる。

したがって、申立人の本件仲裁申立ては、いずれの点についても理由がないから棄却すべきものと判断し、また、その結果に照らし仲裁費用は申立人の負担とするのが相当である。

よって、本件スポーツ仲裁パネルは、主文のとおり判断する。

第 8 付言

本件のように、国内スポーツ競技団体の競技本部やナショナルチーム等の強

化部門は、日本代表選手団の編成方針や派遣推薦基準等を定め、メダル獲得及び入賞可能性の高い選手を選出することを旨とし、また、国際主要大会参戦基準等を策定して、最大の成果を挙げることと、選手の出場の機会の確保のバランスをとるよう努力していることは認める。しかしながら、代表選手選考基準や代表編成方針、国際大会参戦基準等は、代表を目指し夢を追い求め、晴れのオリンピック・パラリンピック等の国際舞台への参加を目指して日々精進している選手にとっては、その変更や見直しはきわめて重大な影響を及ぼすものであって、事前の丁寧な説明や納得できる理由の開示公表が不可欠である。今後、同様の紛争が生じないように、スポーツの競技力の向上だけでなく、選手・コーチ・監督等、関係者が一丸となって協力協働できるよう相互理解とコミュニケーションの回復に努めていただけることを強く望む。

以上

2025 年 11 月 20 日

スポーツ仲裁パネル

仲裁人長 棚村 政行

(別紙表)

Competition Date 競技日	Place 開催地名	Nation 開催国	Discipline 種目	Codex コーデックス
2025/11/28	Ruka	FIN	Classical	2204
2025/11/29	Ruka	FIN	Sprint	2206
2025/11/30	Ruka	FIN	Others	2210
2025/12/5	Trondheim	NOR	Sprint	2214
2025/12/6	Trondheim	NOR	Others	2218
2025/12/7	Trondheim	NOR	Others	2212
2025/12/13	Davos	SUI	Sprint	2224
2025/12/14	Davos	SUI	Others	2228